

# 競 技 上 の 注 意 等

1 本大会は令和4年度（公財）日本バドミントン協会競技規則及び公認審判員規程に準じ、本大会運営規程により行う。

2 得点について 全試合21点2ゲーム先取（打ち切り）

## 3 タイムテーブル・開閉会式について

- (1) 感染拡大防止対策により開会式・閉会式は行わない。表彰は随時行う。
- (2) 試合は、試合番号優先で全種目トーナメントで進行する。
- (3) 進行上、タイムテーブルとコート・時間が変わる場合があるため館内放送に注意する。
- (4) 男女ともAクラスの部より開始する。

## 3 進行について

- (1) 流し込みで行う。選手は線審と得点係を連れてくるようにする。
- (2) トーナメントをA B C Dの4つのブロックに分け、入館時間をずらし密を避ける。開始予定時刻の1時間前に入館する。
- (3) 試合終了後は、敗者審判となるので負けた選手はコートで待機して下さい。本部から審判用紙とシャトルを届けます。
- (4) 2日目の試合順序（全員朝で入館）

## 4 サイド

ベンチ入りは、選手・監督・コーチまたはマネージャーとする。コーチは教員又は県中体連の登録者とする。但し、1年経験者の部は引率者（保護者含む）のベンチ入りを可とする。

## 5 ゲーム中（インプレー以外時）のアドバイスについて

- (1) アドバイスはコーチングシートからのみとする。
- (2) 試合の遅延行為にならないようにする。また相手選手が萎縮するようなアドバイスであってはならない。

## 6 インターバル

- (1) 各ゲーム間で120秒を超えないインターバルを認める。
- (2) 第3ゲームの場合、どちらかが8点目をとった時にチェンジエンド後に1分とれる。（11点ゲームの場合は6点目でチェンジエンド）。
- (3) 連続試合になる場合は、10分間のインターバルをとることとする。

## 7 シャトル

- (1) シャトルは、本部で渡されたシャトルを使用する。
- (2) シャトルを渡されたら、試し打ちはなし。すぐに試合を開始する。

## 8 水分補給等

競技中の汗拭き、水分の補給については、主審の許可を得て行いゲームの中断にならないようにする。水分補給用容器はスクイズボトル(ワンタッチ式水筒)を使用する。(かごは設置しないが、フロアへの直置きをしないようにする)

## 9 監督・選手待機所について

- (1) 待機場所に入れるのは監督、コーチ、マネージャー、選手とする。
- (2) 待機場所は、コール直前の選手等の待機場所とする。
- (3) 待機場所に来たら担当の競技役員に ID カードのチェックを受ける。
- (4) 椅子の設置はないが、直接床に座らないように待機する。

## 10 試合態度

- (1) プレーを故意に遅らせたり中断したりすることをしてはならない。  
○くつひもの結び直し      ○眼鏡を拭く      ○構えない  
○サーブをなかなか打たない      ○汗拭きのために勝手にコートを出る 等
- (2) 見苦しい服装、無礼な態度や言動、耳障りな掛け声や叫び声などもしてはならない。
- (3) 審判に対しての質問は認められるが、抗議はできない。質問できるのは当該選手のみとする。  
※(1)～(3)の行為がある場合、警告後フォルトをとる。度重なる場合は失格となる場合もある。
- (4) 上衣は下衣の中に入れること(ユニフォームの形状で上衣を中に入れられないものもあるが、あいさつの時やインターバル後は入れておくこと)。
- (5) タオル生地のリストバンドは認めるが汗止めのアンダーラップやネックレス・ブレスレッド・医療用でないサポーターなどは認めない。アンダーウェアの着用の場合も上衣・下衣をはみ出さないよう心がけること。

## 11 コートに持ち込めるもの

**持ち込める物に関しては、フロアへの直置きをしないようにする。**  
**(対応策例) トーナメントバックやリュックなどに入れる。かご、敷物を準備する等。**

- (1) コートサイドに持ち込めるもの(主審に許可をもらいながら使える道具として考えてよい)

・ラケット      ・シャトル      ・スクイズボトル(ワンタッチ水筒可)      ・タオル  
・滑り止め      ・トーナメントバック      ※ペットボトル不可

(2) ベンチに持ち込めるもの

① トーナメントバック(着替え類、タオル、ラケット)

② 60秒,120秒インターバル時に、ベンチからコートサイドに持ち込めるもの

- ・氷のう (使用の仕方注意)      ・コールドスプレー      ・濡れタオル
- ・うちわ (応援道具としては不可)
- ・クーラーバックまたはクーラーボックス (ソフトタイプ)  
注1) A4サイズぐらいのコンパクトなもので1つまでとする  
注2) 底や床を濡らさないようにする事。濡れたらふき取るようにする事。

③ ベンチに持ち込めないもの

- ・モバイル通信機器 (iPad、携帯電話等)      ・大きなクーラーボックス
- ・ポータブル扇風機

## 12 その他

(1) サービス高を1.15mに固定するルールを判定するために支柱に1.15mのテープを巻く。

(2) 使用ウェア(インナーウェアも含む)は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。

(3) ウェアは背面や袖口にプリントや刺繍のないものを使用し、ゼッケンは四隅の4カ所を留めること。もし、背面プリントのあるウェアを使用する場合は、ゼッケン等で完全にかくれるようにすること。

(4) 会場に入場する場合、必ずIDカードをつけること。

(5) 監督、コーチ、マネージャーはベンチやコーチングシートに入る場合、競技用シューズや体育館シューズを履くこと。また、監督、コーチの服装は、試合にふさわしい服装とする。(長ズボン、襟付きシャツ)

(6) 病気やけがが発生した場合、応急処置を認める。但し、5分後に試合続行の不可の確認を審判が行う。ゲーム続行の場合は、遅延行為にならないように速やかにゲームを再開する。

(7) 横断幕について

① 学校名のみ使用可とする(個人名、ジュニア名など不可)。

② プレーの妨げにならない場所(コートサイド等)に掲示する(詳細は会場にて指示)。ただし、体育館内の方角表にはかからないようにすること。

③ 白基調の横断幕は、試合進行の妨げになるので避けること(コートサイド側は可)。

④ 千羽鶴は可

(8) 写真・ビデオ撮影について

① 会場のコンセン特的使用はしない。フラッシュを用いての撮影は禁止とする。

② 大会の様子を保護者や関係者が記録撮影することは構わないが、公的な場所やウェブサイト上で上映や公開をする場合には肖像権の関係上、映っている選手と保護者の同意を得ること。